

第64回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成29年11月16日（木） 10:00-11:10

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

松山宇宙政策担当大臣

高田宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官、行松参事官

4. 議事次第

(1) 宇宙ビジネス創出の取り組みについて

(2) 工程表改訂に向けた各部会での検討状況について

(3) その他

5. 議事

(冒頭大臣挨拶)

開催にあたり、松山宇宙政策担当大臣より挨拶があった。

○第64回宇宙政策委員会の開催に当たりまして、担当大臣として一言御挨拶を申し上げます。

安倍政権では政策の柱として一億総活躍社会の実現、それに向けた生産性革命、またGDP600兆円経済の実現を掲げております。宇宙分野は生産性の向上あるいは新ビジネス、新産業の創出などを通じまして、これらの実現に貢献する大変重要な分野であると認識をいたしております。

こうした中、担当大臣として着任早々、8月に「みちびき」3号機の打ち上げの視察、またJAXAの筑波宇宙センターの視察を通じまして、我が国の宇宙開発、利用の取り組みの理解をより深めたところでございます。

先月は、宇宙分野では初のビジネスアイデアコンテスト、S-Boosterを開催しまして、宇宙に参画する関係者の皆さん方の幅を広げる試みに取り組んでまいりました。

さらに昨日、15日、昨年成立した宇宙関連2法、衛星リモセン法と宇宙活動法が施行されました。これに基づく申請等の受付も開始をなされたところでございます。

宇宙政策委員会におかれましては、平成27年に宇宙基本計画を取りまとめたいただいて、この計画に基づいて工程表の改訂を行っていただいているところでございます。

ことしも工程表の改定に向けて、審議をお願いしたいと存じます。

今回の改訂におきましては、特に1つ目に準天頂衛星システム、H3ロケット、情報収集衛星について予算確保も含めた着実な推進。

2つ目に衛星データの利活用促進、また新たなビジネス創出に向けた環境整備。

さらに3つ目には、来年3月に東京で開催予定のISEF2に向けた検討。これらについては重点的に進める課題だと認識をいたしております。

12月の工程表改訂に向けて正味1カ月となりましたけれども、引き続き委員の皆様方の御議論、御審議をいただければと思いますので、どうぞ何卒よろしくお願いして、御挨拶とさせていただきます。

(1) 宇宙ビジネス創出の取り組みについて

宇宙ビジネス創出の取り組みについて、事務局より、説明し、以下の議論があった。主な意見等以下のとおり。(以下、○意見・質問等、●回答)

○審査員をやってみて、当日S-Boosterを聞いていていろいろと感じたことは、メンターの方々がビジネス系の方々が多かったからということもあり、ビジネス的な観点は進んでいるが、技術的に甘いところがあり、質疑応答に関してもやはり技術的に知らないから間違っただけで答えていることがたくさんあって、この辺は少し技術的な面でのメンタリングも要するというところを感じた。そうしないと、実際に動き始めて、このようなことは実際は考えていなかったなんてことが起こってくるとよくないため、その観点で少しバックアップしていきたい。大事なことは、継続と前回のフィードバックを次につなげることである。(中須賀委員)

○S-Boosterとデータ利用モデル事業の取り組みは、継続性が一番重要。フォローアップについて、例えば事業自体を継続的にやるだけではなくて、選ばれたものをほかのファンディングにつなげていくことや、もっと具体的にメンターの方がより事業化についてアドバイスを継続していくこと、どのようなことを考えているのか。(山崎委員)

●今年は初めてということもあり、本件に参加していただいた審査をやっていた方々も、参加された当事者の方々にも、まずはしっかりアンケートとかヒアリングをとって、今後どうしていったらいいかをディスカッションする場を持つと思っている。特にファイナリストを中心に、今後どういった支援が必要そうかといったフォローアップもした上で、まずは我々内閣府なり、あるいは他省庁も含めたいろいろな支援ツールがあるため、そういったものにどうやってつなげるか。いきなり資金的なところに行くかどうかはあるが、そういったことも念頭に置いて、まずはしっかりフォローアップをしていきたいと考えている。(高倉参事官)

●東大で交通関係をやっている方と議論している中で、「みちびき」の利用の一つの仕方として自動走行、例えば田舎における、これまでバスとかコミュニティバスみたいな動かしているものは全部やめてオンデマンド、いわゆる無人車で人を運ぶのをやったらどうかとおっしゃる先生がいて、こういうところから入っていけば、比較的道路で車も少ないところでできるのでよいのではないかと。（中須賀委員）

（２） 工程表改訂に向けた各部会での検討状況について
主な意見等以下のとおり。（以下、○意見・質問等、●回答）

○工程表の29番について、S-Boosterとデータの利用モデル事業が、今後も継続して書かれていることは非常に心強い。S-Boosterで感じたことは、マッチングが大切。S-Booster及び利用モデル事業に採択されなかった案件の中にも、芽出しとしては非常にいいアイデアもたくさんあった。今後、裾野を広げていくためには、そうした部分をいかに取り組んでいくかという、広い意味でのマッチングが必要になってくると思う。その観点からは、S-NETのようなネットワークの強化、同じ工程表の中でもワンストップ窓口機能強化をぜひ強化していただきたい。また、データのオープンフリー化については、いかに使いやすいものにしていくかが非常に大切であり、利用者の意見を吸い上げるとともに、柔軟に対応していただきたい。この検討結果の内容なども宇宙政策委員会の中で共有し、どうしたらいいシステムをつくれるかということもぜひ力を入れていただきたい。（山崎委員）

○工程表の50以上の項目を全部実現するためには、相当の予算が必要だということを変更して認識した。予算全体の規模の拡充をお願いしたい。特に、準天頂衛星、H3ロケット、情報収集衛星は確実にとっていくことが極めて重要である。（山川委員）

（３） 衛星リモセンデータに関する基本的考え方について

○リモセンデータの活用に関して、規制と活性化のバランスをしっかりと考えていかなければいけない。セキュリティーをしっかりと維持しつつ、決して規制法にはならないようにしていただきたい。リモセンに関して、今、大きく時代が変わろうとしており、リモセンのデータを解析する人が人間ではなくなる可能性が出てきた。AIが進んできたことで、いわゆるトレーニングデータ、つまり上から見たときにはこうだった、そのとき地上ではこうだった。この相関関係のトレーニングデータをたくさん与えればそこから学習して、勝手にコンピューターがある種の状況判断をしていくとなり始めている。新しい世の中において、どうあるべきかという視点をやはり持っていないと、人間でいろいろとやることをベースにつくってしまうと、結局また近い将来に変

えていかなければいけないので、少しそういう先読みをもとに戦略であるとか、あるいはこういう規制みたいなものも考えていくことは必要だと思いますので、この辺は様子を見ながら、ぜひ少し先読みをした状態で考えていくことを民生部会でもやっていきたい。(中須賀委員)

以上